大阪損保革新懇ニュース

大阪損保革新懇事務局
大阪市中央区瓦町 1-7-1
エスペランサ瓦町ビル 4 階
06－6232－1095

# 能登半島の現状と日本の病巣

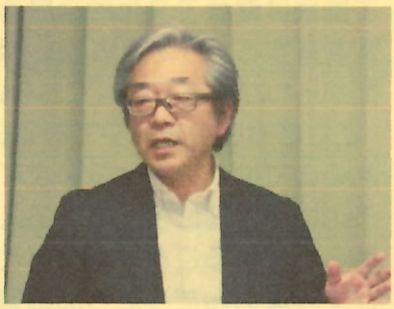
3 月 14 日、『新聞 うずみ火』代表 矢野宏さんを招き、学習講演会を開催しました。46 名が参加。矢野さんが現地で見た、復興が進んでいない能登半島の現状…東北震災や熊本地震に比して、自衛隊員の派遣が極端に少ない。倒壊家屋の撤去が 1 年を経過しても公費撤去申請件数の半分にも達していない。支援の遅れで、石川県の災害関連死（313 人）が地震による直接の死者（541 人）の半数を超えてきている等、具体的な事例を上げて説明がありました。

その復興が進まない原因が、「無駄な財政支出は避けたい」と過疎地を切り捨てる国の「棄民政策」にあると自公政治の歪みを指摘され、参議院選挙で国民に寄り添った政治に変えていく必要を強調されました。

【講演要旨】

## 『新聞うずみ火』代表　矢野 宏さん

ご紹介いただきました矢野宏です。



「新聞うずみ火」という月刊紙を毎月 1 回出しています。能登には地震発生以来現地に入り、毎月報道してきました。今日は私が見てきたその能登半島の現状を皆さんにお伝えして、一緒に何か考えていければと思っています。

「うずみ火」というのは灰の中に埋めた炭火のことです。灰の中に埋めた炭火は消えません、消えることなく、翌朝新たな火種となります。今年は戦後 80 年です。曲がりなりにもこの国は他国を侵略していない、そして侵略を受けていない。戦争体験者からこの平和な世の中を受け継いで、そして消すことなく次の世代、若い世代に手渡したいという思いで新聞を出しています。2005 年 10 月に創刊しもうすぐ 20 年になります。小さな新聞ですけど、創刊 10 年の時に「平和・協同ジャーナリスト基金賞」の奨励賞をいただきました。また 4 年前の 2021 年には「むのたけじ地域・民衆ジャーナリズム賞」の大賞をいただきました。

### 震災 1 年後の能登の姿

能登半島地震、去年の 1 月 1 日午後 4 時 10 分でした。震源地は珠洲市なんですね。私が輪島と珠洲に入った時にまず言われたことは「珠洲原発ができてなくて良かった」です。実は、震源地の隣に高屋というところがあって、ここに関電は原発を作る予定だった。もう 1 つ寺家というところ、ここは中部電力がつくる予定でした。行ってみたら、土地が隆起してるんです。ですから、もしどっちかに作っていたら、とんでもないことになってますよ。

地震から 2 ヶ月半後、3 月 16 日に初めて輪島に入りました。というのは、それまで入れなかったんです。「のと里山海道」という金沢から輪島までの一本道があるんです。すごく良い道です。それが寸断されて入れなかった。3 月 16 日に何があったか覚えてますか。北陸新幹線の延伸なんです。それに合わせて道路を作ったんですね。

で、やっと輪島に入ったら凄まじい状況です。焼けたのが 240 棟、5 万㎡。鎮火には 14 時間かかってるんです。何でそんなに時間がかかったのか。水道管が壊れて断水したんですね。消火栓も使えなかった。私、その当時、駆けつけていた消防署員に聞きました。「なんで川の水使わなかったんですか」。「あんたね、分かってないだろ」って言われました。水がなかったんですよ、地震で隆起して。だから川から水を引っ張ることできなかった。で、地下に水を溜めてる防火水槽になんとかホースを繋げようとした。しかしね、瓦礫で届かないんですよ。だからもう焼けるがままになってしまった。

次に輪島に入ったのが、４月９日でした。状況は全く変わっていませんでした。５月 15 日、朝市の場所にかろうじて緑の草が生えてきた。５ヶ月半経った６月 14 日、何ら変わってない。６ヶ月半後の７月、ようやく私、瓦礫を片付ける重機を見ました。しかしたった２台です。240 棟が焼けて瓦礫になっているのを、２台でどうやって処理するのか。そう思いました。７ヶ月半経った８月、ようやく地面が一部見えてきた。花が手向けられていました。そして昨年の 12 月 21 日、もうまもなく１年という時、ちょうど雨でぬかるんでましたけれども、ようやく瓦礫が処理されて地面が見えるようになってました。これがまもなく１年になる時の被災地の姿です。このように観光地は少し片付いたかもしれない。しかしその周りはずっと地震当時のままでした。

## 「棄民政治」を許してはならない

そこに９月 21 日の豪雨です。この豪雨の取材の時に１人の自衛隊員も見ませんでした。どこに行ってたのか。10 月 23 日から 10 日間、自衛隊と米軍が４万 5000 人、南西諸島で共同の訓練をやっていたんです。被災者の１人はこう言ってました。「自衛隊は完全に戦う部隊になったんですね」と。それは私にとっても衝撃的な言葉でした。

豪雨は仮設住宅をも直撃しました。実は、仮設住宅の場所は、輪島市が作った「ここ洪水来るよ」というハザードマップの真っ赤なところだったんです。いや、なんでそんなところに仮設住宅作るんだって思いますよね。言い分を聞きました。「能登半島は山間部が多い。平野部が少ないため、近くに緊急避難場所を確保した上で仮設住宅を建設した」と。つまり、もしもの時はその危ない仮設から緊急避難場所に逃げてください、というわけですね。こんなバカな話ありますか。もっと早く倒壊家屋を処理すれば、そこに仮設住宅建てることはできたわけですよ。

能登半島地震ってそんなに軽いものだったのか。この直近の 20 年で発生したマグニチュード７以上の地震、私調べました。３つです。能登半島地震と東日本大震災、そして熊本地震です。能登半島は７・６、東日本は９・.0、熊本地震は７・.3です。だから東日本大震災に匹敵する地震だったということなんです。にもかかわらず、こうやってほったらかしにされてきたということです。

衝撃的だったのは、2024 年４月９日、財務省の財政制度等審議会の分科会です。ここである官僚が「無駄な財政支出は避けたい」と言ってるんですね。無駄?! 能登は人口も減ってるし、高齢化も進んでるから無駄だって。つまりこの国は、いる命、いらない命の線引きをやってるってことです。それが「棄民政治」です。民を捨てていく政治ですよ。こんなことを絶対に許してはいけない。

## 日本の病巣と政治家の使命

一方で華やかな、北陸新幹線の延伸があった。ただ、それで避難者がホテルから追い出されたんです。交渉して、結局はまた戻って来れるようになったんですが、延伸開始の３月 16 日 17 日は「出て行ってくれ」です。能登の人はね、本当に優しいっていうか、「わがまま言えんから」って言うんですよ。いや違うでしょう。だって「すべて国民は健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」って憲法 25 条で決めてるんですよ。だからわがままでも何でもない。

ここに今日のテーマである日本の病巣の１つがあるのではないかと思います。私は、政治家というのはこの国に住んでいる人の命と財産、そして暮らしを守ることが使命だと思っています。それができないんだったら即刻退場してもらいたい。そう強く願います。

輪島の朝市通り、瓦礫の山だったところにやっと地面が見えるようになりました。そこに１本の木が生きてたんです。「タイサンボク」という木です。花言葉知ってますか。「前途洋々。将来が希望に満ちてる」。亡くなった方々が「タイサンボク」を残したのかな。そんなことを思いながら、この写真を撮らせていただきました。長時間にわたってご清聴いただきありがとうございました。